

四半期報告書

(第118期第2四半期)

自 平成24年7月1日

至 平成24年9月30日

日本精鋁株式会社

東京都新宿区下宮比町3番2号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	6

2 役員の状況	7
---------	---

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13

2 その他	19
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月14日
【四半期会計期間】	第118期第2四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）
【会社名】	日本精鉱株式会社
【英訳名】	NIHON SEIKO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 木嶋 正憲
【本店の所在の場所】	東京都新宿区下宮比町3番2号
【電話番号】	03（3235）0021（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経理部長 渡邊 繁樹
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区下宮比町3番2号
【電話番号】	03（3235）0021（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経理部長 渡邊 繁樹
【縦覧に供する場所】	日本精鉱株式会社 大阪営業所 （大阪府大阪市西区江戸堀1丁目2番11号 大同生命南館） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

（注）上記の当社大阪営業所は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第117期 第2四半期 連結累計期間	第118期 第2四半期 連結累計期間	第117期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高（千円）	7,278,034	6,267,468	13,048,210
経常利益（千円）	651,613	401,909	949,947
四半期（当期）純利益（千円）	386,412	250,569	636,240
四半期包括利益又は包括利益 （千円）	369,393	246,423	635,147
純資産額（千円）	3,822,917	4,199,614	4,014,554
総資産額（千円）	9,746,615	10,950,236	10,404,240
1株当たり四半期（当期）純利益金 額（円）	31.51	20.50	51.91
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（%）	39.2	38.4	38.6
営業活動によるキャッシュ・フロー （千円）	△800,132	701,434	△193,001
投資活動によるキャッシュ・フロー （千円）	△288,138	△897,453	△874,073
財務活動によるキャッシュ・フロー （千円）	748,356	530,535	680,316
現金及び現金同等物の四半期末（期 末）残高（千円）	1,686,343	1,973,943	1,639,499

回次	第117期 第2四半期 連結会計期間	第118期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額（円）	17.57	7.71

- （注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また主要な関係会社における異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（以下「当第2四半期」という）におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興需要やエコカー補助金などの政策効果により、緩やかな回復傾向にありましたが、中国経済の減速や欧州債務危機の拡大懸念、長期化する円高の影響等もあり、景気の先行きについては、不確実性が高まっており、下振れリスクも懸念されています。

当社グループを取り巻く当第2四半期における事業環境は、厳しい状況の中でも自動車産業向けや一部電子部品向けが比較的堅調に推移し、好調であった前年同期と比べると減収、減益となりましたが、連結ベースでは期初予想を上回る利益を確保することができました。

その結果、当第2四半期の売上高は前年同期比1,010百万円減収（13.9%減収）の6,267百万円、営業利益は256百万円減益（37.9%減益）の421百万円、経常利益は249百万円減益（38.3%減益）の401百万円、四半期純利益は135百万円減益（35.2%減益）の250百万円となりました。

セグメントごとの業況は次のとおりです。

[アンチモン事業]

同事業の原料であり、製品販売価格の基準ともなるアンチモン地金の国際相場は、4月中旬に上昇に転じましたが、6月以降は緩やかな下げ基調となり、当第2四半期の平均はトン当たり13,190ドルで、前年同期の15,416ドルに比して14.4%ダウンとなりました。

同事業の販売状況につきましては、家電向けなどが低迷し、当第2四半期の販売数量は、前年同期比163トン減少（4.8%減少）の3,237トンでありました。

その結果、同事業の当第2四半期の売上高は、相場の下落と販売数量の減少により、720百万円減収（16.0%減収）の3,789百万円となりました。セグメント利益は、売上高減少が影響し、188百万円減益（50.0%減益）の189百万円となりました。

[金属粉末事業]

同事業においては、粉末冶金向け金属粉はエコカー補助金などの政策効果により緩やかながら回復しつつあるものの、前年同期並みの需要には至っておらず、電子部品向け微粉末金属粉についても、スマートフォン以外の電子部品関連需要が伸び悩んでいます。

用途別の販売状況の実績につきましては、粉末冶金向け金属粉の当第2四半期の販売数量は、前年同期比83トン減少（8.6%減少）の887トン、電子部品向け微粉末金属粉は、97トン減少（24.0%減少）の305トンとなり、全体では前年同期比180トン減少（13.1%減少）の1,192トンでありました。

その結果、同事業の当第2四半期の売上高は285百万円減収（10.3%減収）の2,470百万円となりました。セグメント利益は、販売数量減少に加え、原材料価格の下落による販売価格の低下により、71百万円減益（25.5%減益）の209百万円となりました。

[その他]

当第2四半期不動産賃貸事業の売上高は7百万円（前年同期比36.7%減収）、セグメント利益は7百万円（前年同期比42.8%減益）でありました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は1,973百万円となり、前連結会計期間末と比較して334百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は701百万円の収入(前年同期は800百万円の支出)となりました。主なプラス要因は、税金等調整前四半期純利益391百万円、減価償却費222百万円、売上債権の減少額218百万円、仕入債務の増加額378百万円等であり、主なマイナス要因は、たな卸資産の増加額351百万円、法人税等の支払額135百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は897百万円の支出(前年同期比211.5%増)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出888百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は530百万円の収入(前年同期比29.1%減)となりました。プラス要因は、短期借入金の純増加額100百万円、長期借入金による収入850百万円であり、主なマイナス要因は長期借入金の返済による支出344百万円、配当金の支払額61百万円等であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

①当社の株主の在り方に関する基本方針(会社法施行規則第118条第3号にいう、財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針)

当社は、株主は市場での自由な取引を通じて決まるべきものと考えております。従いまして、株式会社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えています。なお、当社は、資本市場のルールに則り、株式を買い付ける行為それ自体を否定するものではありません。

しかしながら、株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、当社の持続的な企業価値増大のために必要不可欠な従業員、取引先、債権者等の利害関係者との関係を損ね、当社の企業価値・株主共同の利益に反する重大なおそれをもたらすものも想定されます。当社は、このような大規模な買付行為や買付提案を行う者は、例外的に、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと考えております。

②基本方針の実現に資する取組み

当社グループは「環境と安全そして成長を最重要課題と認識し、社会との共存を図り、より豊かで安全な生活環境を作るために必要な物作りの一翼を担う」ことを基本理念としております。

また、株主各位をはじめ、取引先、従業員、社会という全ての利害関係者から支持を得て、企業の経済的価値の向上とともに、社会的責任や環境保全の責務を果たすことが当社の企業価値を高め、ひいては株主共同の利益の確保、向上に繋がるという認識に立ち、経営にあたっております。

上記の企業努力にもかかわらず、当社取締役会の賛同を得ることなく、特定の株主グループの当社株式の保有割合が20%以上となるような当社株式の買付けを行おうとする者に対して、1.買付行為の前に、当社取締役会に対して当社が求める情報提供をすること、2.その後、当社取締役会(別途設ける独立委員会を含む)が、その買付行為を評価し、交渉・評価意見・代替案作成の期間を設けることを要請するルールを策定し、このルールが遵守されない場合は、当社の企業価値・株主共同の利益に反する買付行為を抑止するための枠組みが必要であると考えております。

そのため当社は、上記に対する取組として、当社株式の大規模買付行為に関する対応策(買収防衛策)の導入を平成19年4月27日開催の取締役会において決議し、さらに導入にあたっては株主各位の意思を反映させるべきという観点から、平成19年6月28日開催の定時株主総会に導入提案を付議し、承認されました。

その後、承認された買収防衛策の有効期限を平成22年6月開催の定時株主総会の終結の時までとしていたため、当社取締役会は金融商品取引法及び関連政省令の改正等の動向、並びに本件に関するその後の情勢変化等も勘案しつつ、企業価値・株主共同の利益の確保・向上の観点から、継続の是非も含めその在り方について検討を加えました。その結果、導入時の基本的な考え方及びその目的に変更がないことから、買収防衛策を一部改定の上継続することを平成22年5月27日開催の取締役会において決議し、次いで当社定款に基づき平成22年6月29日開催の定時株主総会に付議した結果、取締役会の決議のとおり継続することが承認され、現在に至っております。

③上記②の取組みについての取締役会の判断

当社取締役会は、上記②の取組みが、上記①の基本方針に沿って策定され、当社の企業価値、株主共同の利益を確保・向上させるための取組みであり、株主各位の共同の利益を損なうものではないと判断します。

また、当該買収防衛策は、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防ぐため、独立委員会を設置し、独立委員会の勧告を最大限尊重して買収防衛策が発動されることが定められており、取締役の地位の維持を目的とするものではありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費の金額は、35,075千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,029,500	13,029,500	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	13,029,500	13,029,500	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	—	13,029,500	—	1,018,126	—	564,725

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
福田金属箔粉工業株式会社	京都府京都市山科区西野山中臣町20	1,804	13.85
双日株式会社	東京都千代田区内幸町2丁目1-1	660	5.06
太陽鋳工株式会社	兵庫県神戸市中央区磯辺通1丁目1-39	594	4.56
J Xホールディングス株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6番3号	397	3.05
親和物産株式会社	東京都港区西新橋1丁目14-2	286	2.19
矢地節子	富山県氷見市	200	1.53
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラ スト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4-5 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	193	1.48
竹上雄輔	千葉県流山市	150	1.15
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	130	1.00
日本化学産業株式会社	東京都台東区下谷2丁目20-5	122	0.94
成川實	埼玉県川口市	122	0.94
計	—	4,658	35.75

(注) 上記のほか、自己株式が810千株あります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式810,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式12,120,000	12,120	—
単元未満株式	普通株式99,500	—	一単元 (1,000) 未満の株式
発行済株式総数	13,029,500	—	—
総株主の議決権	—	12,120	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」欄には株式会社証券保管振替機構名義の株式が4,000株含まれております。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
日本精鋳株式会社	東京都新宿区 下宮比町3-2	810,000	—	810,000	6.22
計	—	810,000	—	810,000	6.22

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,639,499	1,973,943
受取手形及び売掛金	※ 2,578,564	※ 2,360,124
有価証券	1,000	1,000
商品及び製品	1,141,701	1,160,962
仕掛品	143,307	179,880
原材料及び貯蔵品	694,497	989,753
その他	119,397	93,397
貸倒引当金	△8,669	△7,837
流動資産合計	6,309,298	6,751,225
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	572,010	1,383,364
機械装置及び運搬具（純額）	347,979	946,681
土地	1,478,590	1,478,590
その他（純額）	1,385,333	85,823
有形固定資産合計	3,783,914	3,894,461
無形固定資産	50,318	48,693
投資その他の資産	254,675	250,577
固定資産合計	4,088,909	4,193,732
繰延資産	6,033	5,278
資産合計	10,404,240	10,950,236

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	977,176	1,355,231
短期借入金	1,925,700	2,039,600
未払法人税等	137,472	149,043
賞与引当金	103,021	103,024
その他	1,026,667	407,381
流動負債合計	4,170,038	4,054,281
固定負債		
社債	302,000	288,000
長期借入金	1,436,600	1,928,600
退職給付引当金	301,249	318,976
その他の引当金	12,287	—
負ののれん	32,405	16,596
資産除去債務	35,687	35,069
その他	99,417	109,099
固定負債合計	2,219,647	2,696,340
負債合計	6,389,686	6,750,622
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,018,126	1,018,126
資本剰余金	564,725	564,725
利益剰余金	2,596,217	2,785,684
自己株式	△146,171	△146,433
株主資本合計	4,032,897	4,222,102
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△18,343	△22,488
その他の包括利益累計額合計	△18,343	△22,488
純資産合計	4,014,554	4,199,614
負債純資産合計	10,404,240	10,950,236

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	7,278,034	6,267,468
売上原価	6,190,819	5,419,138
売上総利益	1,087,215	848,330
販売費及び一般管理費	※ 409,221	※ 427,249
営業利益	677,993	421,080
営業外収益		
受取配当金	1,270	1,016
負ののれん償却額	15,809	15,809
助成金収入	715	4,584
その他	4,430	4,292
営業外収益合計	22,225	25,702
営業外費用		
支払利息	29,565	28,626
為替差損	9,270	8,046
その他	9,768	8,200
営業外費用合計	48,605	44,873
経常利益	651,613	401,909
特別損失		
固定資産売却損	44	2,881
固定資産除却損	1,500	4,194
子会社清算損	611	—
ゴルフ会員権売却損	—	3,376
特別損失合計	2,156	10,452
税金等調整前四半期純利益	649,457	391,456
法人税、住民税及び事業税	127,776	147,895
法人税等調整額	135,268	△7,008
法人税等合計	263,045	140,887
少数株主損益調整前四半期純利益	386,412	250,569
四半期純利益	386,412	250,569

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	386,412	250,569
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17,018	△4,145
その他の包括利益合計	△17,018	△4,145
四半期包括利益	369,393	246,423
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	369,393	246,423

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	649,457	391,456
減価償却費	131,483	222,688
負ののれん償却額	△15,809	△15,809
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,507	△831
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△7,183	2
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△11,300	△21,000
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	20,117	17,726
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△8,864	330
受取利息及び受取配当金	△1,414	△1,156
支払利息	29,565	28,626
為替差損益 (△は益)	—	72
有形固定資産除却損	1,500	4,194
有形固定資産売却損益 (△は益)	44	2,881
ゴルフ会員権売却損益 (△は益)	—	3,376
売上債権の増減額 (△は増加)	△405,415	218,439
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△229,520	△351,089
仕入債務の増減額 (△は減少)	△866,097	378,054
子会社清算損益 (△は益)	611	—
その他	108,651	△16,573
小計	△602,665	861,389
利息及び配当金の受取額	1,414	1,156
利息の支払額	△33,333	△25,391
法人税等の支払額	△184,710	△135,720
法人税等の還付額	19,162	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△800,132	701,434
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△1,000	△1,000
有価証券の償還による収入	1,000	1,000
有形固定資産の取得による支出	△273,416	△888,709
有形固定資産の除却による支出	△7,343	△11,570
有形固定資産の売却による収入	30	118
無形固定資産の取得による支出	△11,797	△2,541
資産除去債務の履行による支出	—	△141
ゴルフ会員権の売却による収入	—	5,390
子会社の清算による収入	4,388	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△288,138	△897,453

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	370,000	100,000
長期借入れによる収入	800,000	850,000
長期借入金の返済による支出	△321,600	△344,100
社債の償還による支出	△14,000	△14,000
自己株式の取得による支出	△212	△262
配当金の支払額	△85,830	△61,102
財務活動によるキャッシュ・フロー	748,356	530,535
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△72
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△339,914	334,444
現金及び現金同等物の期首残高	2,026,257	1,639,499
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,686,343	※ 1,973,943

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ28,126千円増加しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

(役員退職慰労引当金)

当社の連結子会社は、平成24年5月25日開催の定時株主総会において役員退職慰労金打ち切り支給の決議を致しました。これに伴い、決議時点での「役員退職慰労引当金」を全額取り崩し、打ち切り支給額の未払分については長期未払金として固定負債の「その他」に計上しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	28,056千円	14,568千円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
販売費	74,693千円	74,062千円
給与及び手当	138,305	148,999
賞与引当金繰入額	24,453	25,878
退職給付費用	9,252	7,765
役員退職慰労引当金繰入額	1,135	330
研究開発費	24,807	35,075
減価償却費	2,904	3,430

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	1,686,343千円	1,973,943千円
現金及び現金同等物	1,686,343	1,973,943

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	85,830	7.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月2日 取締役会	普通株式	61,303	5.00	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	61,102	5.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	61,096	5.00	平成24年9月30日	平成24年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	アンチモン 事業	金属粉末 事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	4,510,187	2,755,480	7,265,668	12,365	7,278,034	—	7,278,034
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	22,091	22,091	990	23,081	△23,081	—
計	4,510,187	2,777,571	7,287,759	13,355	7,301,115	△23,081	7,278,034
セグメント利益	378,130	280,653	658,784	12,852	671,636	6,356	677,993

- (注) 1. 上記の報告セグメントに含めていない、不動産賃貸事業であります。
2. セグメント利益の調整額6,356千円はセグメント間取引の消去6,356千円であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

- II 当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	アンチモン 事業	金属粉末 事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	3,789,276	2,470,367	6,259,643	7,825	6,267,468	—	6,267,468
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	15,547	15,547	—	15,547	△15,547	—
計	3,789,276	2,485,914	6,275,190	7,825	6,283,016	△15,547	6,267,468
セグメント利益	189,154	209,134	398,289	7,352	405,641	15,438	421,080

- (注) 1. 上記の報告セグメントに含めていない、不動産賃貸事業であります。
2. セグメント利益の調整額15,438千円はセグメント間取引の消去15,438千円であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。
4. 会計方針の変更
当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。
これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益がそれぞれ「アンチモン事業」で2,880千円、「金属粉末事業」で25,246千円増加しております。

(金融商品関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成24年9月30日)
該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成24年9月30日)
該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成24年9月30日)
該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	31円51銭	20円50銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	386,412	250,569
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	386,412	250,569
普通株式の期中平均株式数(株)	12,261,311	12,219,955

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年11月2日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………61,096千円

(ロ) 1株当たりの金額……………5円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成24年12月5日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月13日

日本精鉱株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 篠原 真 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大竹 栄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本精鉱株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本精鉱株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

「会計方針の変更」に記載されているとおり、会社は第1四半期連結会計期間より法人税法の改正に伴い、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。